



論点整理

第二章 質の高い、深い学びを実現し、
分かりやすく使いやすい学習指導要領の在り方 ⑥

「見方・考え方」の再整理

課題1 当初の役割、未達成

- ◆ 見方・考え方は各教科等の目標の一部になっているが、その具体は、解説を読まないと分からない。
- ◆ 教科等によっては解説の記載が複雑かつ抽象的で分かりにくい。
 - ※「見方・考え方」が
 - ①「各教科等の学びの深まり」と
 - ②「各教科等を学ぶ本質的な意義の中核」という二つの側面をもつことが影響



課題2 「中核的な概念等」との整理が必要

- ◆ 各教科等の「中核的な概念等」には、主に次の二つの視点がある。
 - (1) 個別の知識及び技能が相互に関連付けられた「教科の主要な概念の深い理解」
 - (2) 個別の思考力、判断力、表現力を総合的に働かせた「複雑な課題の解決」
- ※「見方・考え方」(とりわけ側面①各教科等の学びの深まり)と重複する。

具体的な方向性

- ◆ 「見方・考え方」の側面①「各教科等の学びの深まり」は、「中核的な概念等」による資質・能力の構造化によって一層具体的に示す。
- ◆ 「見方・考え方」自体は、側面②「各教科等を学ぶ本質的な意義の中核」に焦点化してより端的に示していく。

常に将来に目を向けて歩く

みちおな 道同じからざれば、
あいため はか 相為に謀らず。

(訳) 志す道が同じでない者は、互いに相談して行動しようとしてもできるものではない。

出典：「壁を乗り越える論語塾」安岡定子著（PHP研究所）